

人口減少問題に 正面から向き合うまちづくりを

置戸町議会議長 佐藤 純一



新年明けましておめでとうございます。

平成として最後のお正月をご家族の皆さまお揃いでお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと全国各地で40度を超える猛暑日が連日のように報道され、大阪府では地震が、その後、西日本を中心に大雨や台風による集中豪雨など大きな災害が多発した年でありました。

さらに、9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震により北海道全域が大規模停電に見舞われ、その日配達された夕刊の記事と写真の異様な地滑り光景に、初めて被害の甚大さを知ることとなりました。

このように日本列島は、温帯モンスーン気候に属していることから、また温暖化の影響なのか台風や大雨、地震など自然災害が絶えないことを近年特に感じています。

一方、土地が肥えて、水が豊富であり、森林や農作物の植生に適した自然条件に恵まれた国土でもあることもご承知の通りであります。

昨年を振り返ってみましても、6月24日の夏まつり人間ばん馬大会と7月1日のオケト・グリーン・フェスティバルセカンドの2大イベントが雨となってしまいました。

人間ばん馬大会は一昨年続き、午後から雨となりましたが、大会関係者の努力と出場チームによる熱戦と観客の皆さまの応援により無事終えることができました。

OGFは実行委員をはじめ多くのスタッフの支

援により、降りしきる雨の中、会場とアーティストが一体となった盛り上がりを見せておりました。しかしながら、結果として目標に対し少なからず雨の影響もあったのではないかと考えられます。

さて、日本の人口が平成16年の1億2,784万人をピークに少子高齢化を背景に減少が続いています。現在、3,000人弱の置戸町の人口も、公的な機関の推計も含め2040年には2,000人を下回る予測がされております。

昨年末の町民アンケートの調査結果に始まり、置戸町のこの先10年を見据えた第6次総合計画が今年度中に策定されますが、そのなかに10年後、20年後の人口目標も記載されることと思います。人口減少問題に正面から向き合い、謙虚にそして大胆に、まちづくりに取り組むことが求められる、置戸町にとって今年は大変な年になるのではないかと考えられます。

これからも政治や経済はもとより、文化や教育など様々な分野で大都市や中核市が中心的な役割を担う体制は変わらないと思いますが、豊かな自然環境のもと森林や農地、海を一次産業として活用しながら国土を守っているのは地方の自治体です。まさに私たちの住むオホーツク地域であり、広い北海道の大切な役割であると思います。

結びになりますが、このような年であることをともに意識しながら、そして皆さまが穏やかに今年一年を過ごされますことをご祈念し置戸町議会からの新年のご挨拶といたします。